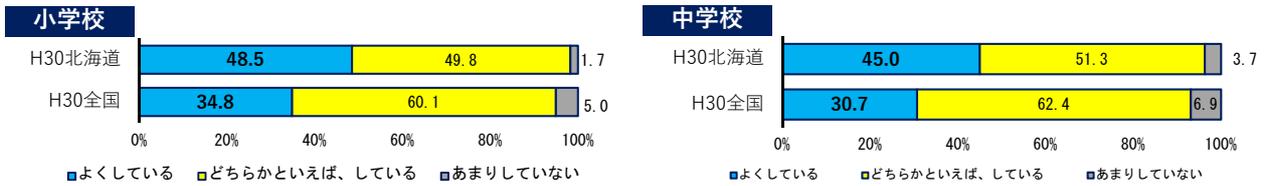


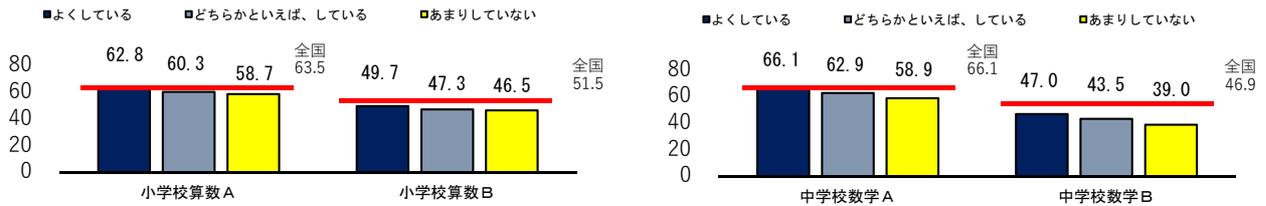
3 検証改善サイクルの確立

〔分析〕

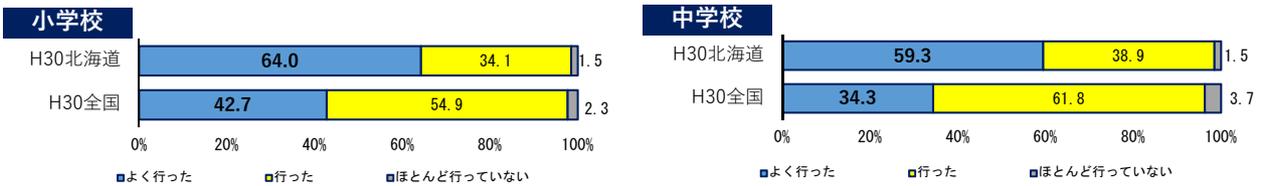
「児童生徒の姿や地域の現状に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」（学校質問紙）



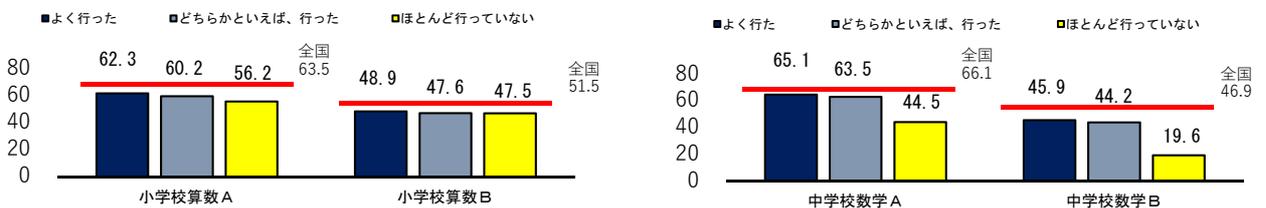
〔学校質問紙と学力のクロス分析〕



「（前年度）全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」（学校質問紙）



〔学校質問紙と学力のクロス分析〕



〔成果と課題〕

- 検証改善サイクルに関する学校の取組状況については、多くの項目で全国よりも高い状況が見られます。
 - ・「児童生徒の姿や地域の現状に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」と回答した学校は、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。
 - ・「（前年度）全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した」と回答した学校は、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。
- 検証改善サイクルの確立に関する項目において、「よく行った」と回答した学校においても、教科の平均正答率が、全国より下回っている傾向が見られます。

〔改善の方向性〕

- ◆ 校長のリーダーシップのもと全教職員が一体となった取組を進める際は、管内の「学校力向上に関する総合実践事業」指定校が「学校マネジメント」「人材育成」「教育課程・指導方法等」「地域・家庭との連携」の観点から、学校改善に取り組んでいる成果をもとに、自校の実情に応じた取組を進めることが大切です。
- ◆ 特に、検証改善サイクルの確立に当たっては、全国学力・学習状況調査の調査結果をはじめとする各種調査の結果の分析や学校評価と連動した検証改善サイクルを確立することが大切です。



◆の改善の方向性に関する事例を紹介しています。 P21～P23

検証改善サイクルの確立に向けた成果指標の設定

ポイント

検証可能な成果指標（数値目標）を設定し、検証結果を全教職員で共有しています。

1 成果指標の設定

SMARTの考え方に基づき、検証可能な成果指標を設定します。

| | 確かな学力の定着 | | 豊かな心を育む | SMART Specific：具体性 Measurable：測定可能性 Achievable：達成可能性 Reasonable：合理性 Time-bound：期限の有無 |
|----------|-----------------------|-------------------------|---|---|
| | 成果指標1-① | 成果指標1-② | 成果指標2-① | |
| 目標 | 標準スコア50ポイント以上 | 学年×10分以上の達成率60%以上 | 学校評価【挨拶】A・B合算80%以上 | |
| 方法 時期 | 標準学力調査 (平成29年度12月) | 家庭学習状況調査 (平成29年度12月) | 学校評価～教職員、 保護者及び子ども (平成29年度7月・12月) | 平成29年度新体力テスト 全学年の結果 (平成29年度7月) |

2 検証改善サイクル



3 検証結果の共有

成果指標に対する検証結果を、グラフや表にまとめ、可視化することにより、全ての教職員が取組の達成状況や児童の変容を具体的に把握しています。

- 検証結果をもとに取組状況や児童の変容を振り返ることにより、次年度の成果指標の設定の際に、目標の妥当性について確かめることができ、持続的な検証改善サイクルを確立しています。
- 効果的な検証改善サイクルの確立のためには、全国学力・学習状況調査の調査結果の分析を位置付け、各種調査結果との関連を図り、学力向上の取組の成果と課題を把握し、次の改善に結び付けることが大切です。

短期サイクルの組み合わせによる検証改善サイクルの確立

ポイント

年間2回の検証改善サイクルを組み合わせることで、学力向上に向けた学校の課題をきめ細かく把握し改善に結び付けています。

〔 年間の検証改善サイクル 〕

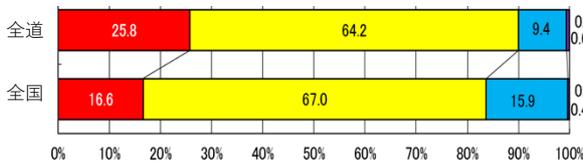
| | | | |
|-----|---|--|------------|
| 4月 | C | 学校経営方針提示（確認）、教育活動説明会（教職員向け）、新年度会議・学校経営説明会（保護者向け） | 前期 サイクル |
| 5月 | ↓ | 全国学力・学習状況調査の自校採点及び分析、第1回学級経営交流会 | |
| 6月 | A | 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施 | |
| 7月 | ↓ | 学校評価①、保護者アンケート、授業アンケート①（児童）、生活リズムチェックシート | |
| 8月 | P | 全国学力・学習状況調査結果分析、学校評価①の分析・公表、第2回学級経営交流会 | |
| 9月 | ↓ | 調査結果をもとに授業改善の具体を策定 | 後期 サイクル |
| 10月 | | 学校改善プラン策定 | |
| 11月 | C | 学校改善プランによる具体的取組の推進 | |
| 12月 | ↓ | 学校評価②、保護者アンケート、授業アンケート②（児童）、生活リズムチェックシート | |
| | A | 体力向上プラン策定 | |
| 1月 | ↓ | 学校評価②の分析・公表、改善策確認・実施、第2回学級経営交流会 | |
| 2月 | P | 授業アンケート③（児童）、年度末反省、新年度計画 | |
| 3月 | ↓ | 学校経営方針提示、新年度教育課程編成・学校関係者評価（学校評議員・PTA役員） | |

- 前期は、7月末に全国学力・学習状況調査の調査結果が明らかになったため、9月には、授業改善の具体的な方策を明らかにし、2学期以降の教育指導に生かしています。
- 後期は、前期の成果・課題を踏まえた学校改善プランをもとに改善に取り組んでいます。
- 前・後期ともに学校評価、授業アンケート（児童）による検証を位置付けることで、きめ細かな課題把握と改善が可能になっています。

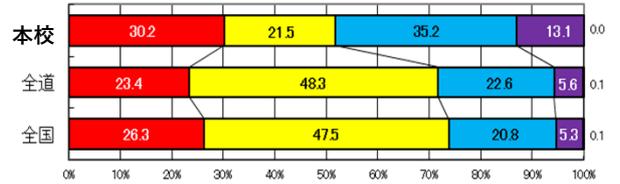
北海道版分析ツールを効果的に活用した授業改善

ポイント 分析ツールを活用して課題を明らかにし、授業改善の方策を決定しています。

学校 生徒は授業では課題の解決に向けて、自分から取り組むことができていると思いますか。



生徒 1,2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



本校は、「そのとおりだと思う」を選択しました。

分析結果の考察と改善方策

〔分析〕学校（教員）は「授業では自分で考え自分から取り組むことができている」と受け止めていたが、生徒の約半数が「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答しており、教員と生徒の意識に大きな乖離が見られる。
 〔改善策〕授業の冒頭に示す「めあて」では、生徒の意欲を高め、課題解決の見通しをもたせる「めあて」へと改善する。また、学習過程では自力解決と考えを交流し合う時間を確保する。

〔北海道版分析ツールの活用〕

- 教科に関する調査結果と生徒質問紙の回答結果を関連付けて分析することにより、課題や改善策を具体的に把握することができ、実効ある改善策を全教職員で共有することができます。
- 「正答数の少ない層」に含まれる生徒の割合など、全国との比較などにより明らかになった自校の課題を授業改善の重点事項に位置付けることができます。

チャレンジテストを活用したPDCAサイクルの確立

ポイント チャレンジテストを活用して指導計画を改善し、授業改善に役立てています。

〔PDCAサイクルによるチャレンジテストの活用〕

D 実施

C 採点
集計
分析

A 授業改善

P 課題に基づいた
指導計画の
改善

- チャレンジテストの採点基準を確認し、各学年の所属教員で分担し採点する。
- 平均正答率が80%未満の設問の状況を分析し、課題と改善策、今後の取組を明確にする。

- 課題に応じた授業改善を進める。
 - ・国語、算数では、課題別問題（過去のサポート問題を含む）を授業で活用する。
 - ・全教科で文章で記述したり説明したりする学習を指導計画に位置付ける。
 - ・全教科で複数の情報を組み合わせて考える場面を授業に位置付ける。
 - ・授業以外として、家庭学習や朝学習に活用する。

- 授業改善の成果を明らかにし、課題や改善点を次の指導計画に生かす。

児童の課題の把握や効果的な課題解決の取組に、学期末・学年末問題とともに、サポート問題・長期休業版を活用し、教育課程の改善に結び付けています。

指導力の向上を図る校内研修

ポイント 教員一人一人の指導力向上に向け、複数の教員研修を組み合わせることで、効果的に校内研修を行っています。

【研修の種類】

- **メンター（ブラッシュアップ）研修**
 - ・若手教員を2チームに構成し、研修内容（計画）を、チーム内で協議し決定する。また、中堅教員を対象としたミドルリーダー研修も実施する。
- **全体研修**
 - ・教科の他、教育課題に応じたテーマ（外国語研修等）を設定する。
 - ・年3回検証授業と年1回公開授業の参観・研究協議を実施する。
- **ブロック研修**
 - ・低・中・高学年で構成し、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえ、模擬授業等を実施する。

年間研修計画（一部）

| 時期 | 内容 | 研修形態 |
|-----|-------------------|----------|
| 4月 | チーム顔合わせ・学級経営見学 | Mグループ |
| 5月 | ノート作りと評価/1日の過ごし方 | Mグループ |
| | 算数科授業改善(教師力向上) | 全体 |
| | 道徳研修 | 全体 |
| | 特別支援教育研修 | 全体 |
| 6月 | 授業の道徳づくり(トライウィーク) | Mグループ合同 |
| 7月 | 学力向上研修①(わかる授業づくり) | 全体 |
| | 新学習指導要領 | 全体 |
| | 保健指導(救急処置) | 全体 |
| 8月 | 生徒指導研修 | 全体 |
| | 毛筆の指導法【実技】 | Mグループ合同 |
| 10月 | 初任段階教員との関わり方について | Mミドルリーダー |
| 11月 | 所見の書き方 | Mグループ合同 |
| 12月 | 外国語研修① | 全体 |
| 2月 | メンティー交流会 | 初任段階教員 |

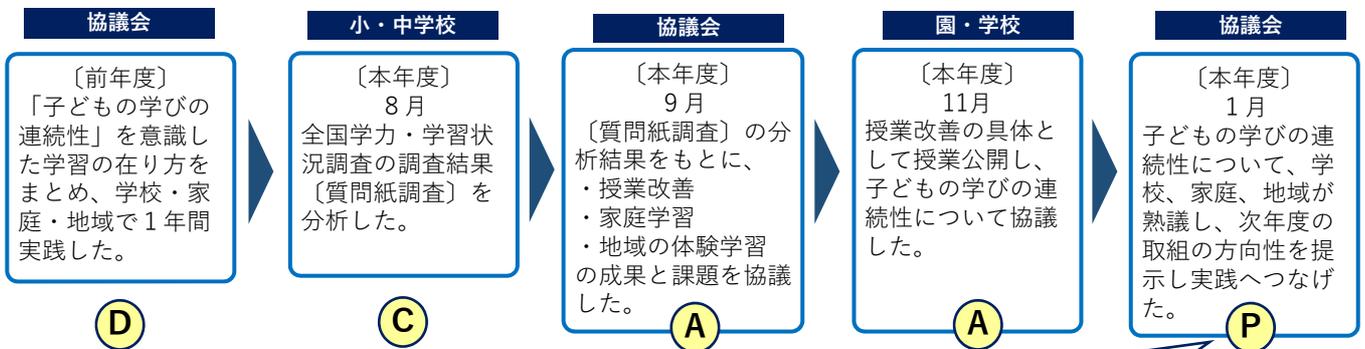
- 「若手教員の割合が増えてきた」「中堅教員層が少ない」などの自校の状況に応じた研修を実施できるよう、校長のリーダーシップのもと研修担当リーダーが、校内研修の年間計画を整備しています。
- 教科だけではなく、学習指導の基盤となる学級経営や毛筆の指導などの実技研修を組み合わせるなど、教員の研修意欲を高める工夫をしています。

学校・家庭・地域が一体となった検証改善サイクルの確立

ポイント 学校・家庭・地域が全国学力・学習状況調査の結果を共有し、子どもの学びの連続性を意識した取組を進めています。

〔園小中高一貫教育推進協議会を設置〕

- 教育委員会が主体となり「推進協議会」を設置し、子どもの学びの連続性を意識した授業、家庭学習、地域での体験学習などの在り方について、学校、家庭、地域が一体となって協議する。



- 就学前の様子や、小学校から高校までの子どもの成長の様子を「学びの連続性」として捉えることで、地域が一体となって子どもを育てようとする機運を高め、継続的な取組にしています。
- 質問紙調査では、子どもの学習意欲や生活習慣はもとより、地域社会との関わり、将来への希望なども含めた調査の分析結果を取り入れることで、学校・家庭・地域が子どもの成長について熟議できるよう工夫しています。